

令和3年度第2回矢巾町立学校通学区域審議会報告書

1 開会（午後6時30分）（田中館学校教育課長）

2 挨拶

田村会長から、「先週、岩手大学の大学院生を連れて沿岸での実習を行ってきた際に、小中学校にお邪魔する機会があり、校長先生からいろいろお話を伺ってきたが、これから、まちづくりと学校との連動していかなければならない、地域にとっての学校の意味、大切さ、地域と一体となって考えていかなければならないといった声が多く聞こえてきた。また、新しい方々、今まで住んでいた方々が一緒になって学校を作っていかなければならないということで、震災津波から10年経って課題となっているという話であった。こうした状況は、被災した地域ばかりではなく全国的に聞かれる状況で、地域とともにある学校というのはよく言われていることから、皆さんのご意見を活かしながら、学校に目を向けていただいて、地域で子どもたちを育てる、矢巾町が培ってきた想いを子どもたちの教育に活かしていただければありがたいと考えている」旨挨拶。

3 議題（進行 田村会長）

（1）開発予定地区を含めた通学区域の検討について

高橋学校教育課長補佐が資料に基づき、審議会の答申までのスケジュール、答申のイメージ、開発予定地区、教室使用状況、田中地区及び下花立地区から徳田小学校、煙山小学校、不動小学校までの徒歩通学距離、小中学校建物築年数について説明。

なお、冒頭に、今回の資料については、内部的な資料のため審議会以外の資料として使用しないよう説明。

○L 委員

新しい開発地区から各学校までの距離的なものを示されているが、実際に歩いてみたことはあるのか。紙上の距離だけでなく、歩いたときの感じなども資料として出していた方がよいのではないか。

学校に入学するときは、子どもと一度歩いてみたりするので、そういった機会もあってもよいのではと感じた。

○N 委員

町政との絡みが重要になってくると考えるが、距離によってスクールバスを出す考えはあるのかといった情報がないと、単純に図面だけの距離だけで決めてしまっているのか判断できないと思われる。

また、前回も出ていたが、徳田小学校の修繕に関して、町としてどのくらいお金をかけるつもりがあるのか、不動小学校も同様にどのくらいお金をかけるつもりがあるのか、その額が多額であれば新しい小学校を作るという考えにもなる。そういった前提となるも

のがないと議論にならないのではないかと考える。

○田中館課長

藤沢地区に関しては、矢巾東小学校に行くことになるが、今、子どもたちが通学している道路が通学路となると思われる。

不来方高校の南側、産業技術短期大学の南側の開発地域について、現在の学区である煙山小学校に通うとなると、県道から北へ行き、矢幅駅の東西自由通路を渡って、煙山保育園へ向かう道路に出て学校へ向かっていくルートとなる。

徳田小学校の場合は、歩道が整備されている不来方高校の南側の道路を東に進んでいくルートとなる。なお、国道4号の手前に歩道がない区間があるが、4号からは歩道橋を渡って小学校へ行くイメージとなる。

不動小学校の場合は、それぞれの開発地から白沢方面へ、南へ向かう道路があるが、歩道が整備されていない道路となる。突き当たって矢巾中学校に向かう道路については歩道が整備されている状況である。

スクールバスについては、それなりの経費が掛かることから、全域ということにはならず、現在も徳田小学校、煙山小学校、不動小学校の一部地域ということで、ある程度距離がある地域を指定し運行している状況であり、今後も一定の基準をもって運行していくことになる。

学校の修繕費については、細かい修繕は今でも行っているところである。今後、こういった修繕が想定されるといった資料をまとめていることから、費用的な部分も含めて次回お示しできればと考えている。

○C委員

新しくできる住宅地について、南矢幅5区は今までの学区と別の学区が混在することとなるのか。

○高橋課長補佐

現状は、行政区ごとに学区が定められている状況であるが、事務局としては、この地区については、別で考えたい。

○C委員

同じ行政区の中に道路なのか線路によって区切って別の学校に行くということになるのか。

○高橋課長補佐

結論ではないが、その地区については、学校のキャパシティー的な問題や通学距離のことを考慮し、別の学校にということ優先すると、同じ行政区に二つの学区が混在することとなる。

○C 委員

行政区の再編については、これから考えていくということか。

○高橋課長補佐

行政区再編も併せて検討していくこととしているが、既存の住民を分けるというのはかなりハードルが高く、難航することとなるため、新たに開発される地区を新しい行政区にするのか、今の行政区にするのか、行政区と調整しながら進めていくこととなる。

行政区再編については、すぐに結論が出るものではないため、行政区再編の結論が出る前に、喫緊に今回の開発地区の学区を決めていく必要がある。

○H 委員

今後、20年、30年を見越して推計した資料だと思うが、どういった過程を経て算定したのか教えてほしい。

また、既存の学校に改善の手を加えて維持していくことになれば、子どもたちの快適性を考慮しながら改修を行っていただくよう要望する。

○高橋課長補佐

人口推計ということで、必ずこうなりますとはならない点についてご了承いただきたい。算出に当たっては、平成27年度国勢調査は、医大が来る前の数値だったことから今回参考にできなかったため、国立社会保障人口問題研究所という日本全国の人口推計を行っている団体が公表している平成30年度の数値を指標とし、矢巾町独自の係数や、年代別の社会移動率、生存率、出生率、男女別の比率を活用し算出している。また、3地区それぞれの宅数を200世帯と想定し、年齢構成については、産業技術短期大学の北側の住宅地の情報を参考に児童生徒の割合を当てはめながら出した数値となっている。

○田中館課長

将来、矢巾町内の学校整備の際には、環境に配慮した施設であったり、いろいろな面で新しいことを取り入れた施設整備を行っていく必要がある。子どもたちにとって、よりよい学びの環境を整備していきたい。

冒頭に20年、30年の長いスパンでの議論をお願いしたい旨話をしたが、この3地区が整備されれば一時的に人口は増える数値になっているものの、その後の推計値は人口減少の時代を迎えるのは否めないことから、そういう部分を見据えて審議会において議論をお願いしたい。そのうえで、通学区域や学校の在り方について議論をいただき、今の学校数はどうなのか、人口が減るのであれば6校より少ない学校数が適正なのか、また、学校が減る場合、空き施設の活用についての検討が必要になってくる。

なお、審議会では、空き施設の議論を行うわけではないが、町の方で活用方法を検討していかなければならない。

○G 委員

3 地区の世帯数の見込みについて教えてほしい。

○高橋課長補佐

1 地区当たり 200 世帯を見込んでいるが、開発する業者からは、売出し価格にも跳ね返ることから、具体的な数値は示されていない。

また、全世帯に児童生徒が張り付くわけではないと考えられるため、産業技術短期大学の北側の住宅地の情報を参考に児童生徒の割合を参考としている。

○田村会長

世帯数、年齢の子どもの数、今の学区であれば通う学校の状況、そこまでの通学路の距離感が出されている。そういった点を総合的に考えて、最終的に区割りというものが決まっていくと思われるが、委員の皆さんからこういう視点はどうか、こういう方向はどうかといった、質問というよりはご意見、お考えを伺えれば、事務局の方も具体の案をこれから詰めていって次回にご提案できるのかなと思うが、委員の皆さんいかがでしょうか。

○L 委員

行政区の区割りの変更も考えられるのであれば、そちらを調整して通学区域に反映していくということも、今後数年とかではなく、今時点でも必要なことと思われる。今話合っていることを各学校に示しながら、困っている部分を吸い上げて、矢巾町全体として考えていければと思う。

○田中館課長

全体的な学区を調整してみてもということであるが、次回までに、他の行政区の部分、3 地区を調整した場合に数値的にどう変化していくのかといった資料をお示しする。

○G 委員

藤沢地区に 200 世帯入るということであるので、矢巾東小学校の人数が大幅に増えてしまう。そこで、藤沢地区を分割して、矢巾東小学校と徳田小学校に振り分けるといったことを考える必要がある。ただ、国道 4 号線を境とするのではなく、スーパーアークス裏側の道路から東が徳田小学校、西が矢巾東小学校に分けるのがよいのではと考える。

○N 委員

商売的な話になるが、藤沢地区は目の前に矢巾東小学校があるのですぐ売れると思われる。しかし、下花立地区、田中地区は学校が近くに無いため、子どもがいる世帯は買わないのではないかと。町として子どもがいる世帯を増やしたいというのであれば、距離的に近い徳田小学校に修繕する予算を集中させて、徳田小学校に通ってもらおう状況を作るといった視点を含めて物事を考えていかなければ、判断するのは難しいと思われる。

子どもがいる世帯は、安全第一に考えると思われ、そういうことであれば学校までより

近いところに住みたいという視点が生まれてくるのでは。町としてどういう世帯を迎え入れたいのか、子どもがいる世帯をとるのであれば、より近いところに新しい小学校を作ってまとめていくという考えも出てくると思う。そういった様々な視点から考えていく必要があるのではないか。

○K 委員

田中、下花立地区については、近いということで徳田小学校になるのかなと考えている。矢巾中学校と矢巾北中学校は、推移をみると同程度の生徒数となるので、行政区内で分けて通わせることでよいと考えるが、あとは行政区がいいと言ってくれるかどうかの問題ではないか。

徳田小学校の徳丹城に関わる移転の件について教えていただきたい。

○田中館課長

今の学区の図面を見ていただくと、田中地区と下花立地区は、南矢幅2区と南矢幅5区となり、中学校区に関しては、煙山小学校、徳田小学校、不動小学校のどの学校になっても矢巾中学校区となる。

藤沢地区に関しては、矢巾東小学校になるが、キャパシティー的には問題ないと予想している。

購買意欲といった部分は、なかなか推測するのは難しいが、開発業者でどういった町にしていくかという部分もあると思うので、事務局の方では推測できないことから、中村地区の状況をもとに推計させていただいた。

○高橋課長補佐

徳田小学校の移転の関係は、今の場所で新しい学校を建てることはできない。かといって今のところから動きなさいというわけではないが、耐用年数は80年となっているものの、どの程度コストがかかってくるのかといった部分は、次回お示しするが、コストをかけてもなお限られた時間ではあるので、子どもたちの安全安心を考えて新しい学校ということになれば今の場所から動かなければならない。

○田村会長

次回、開発地区の学区を早々に決めていかなければならないというところであるが、こういった資料があれば意見を述べやすいというものがあれば申し出ていただきたい。

○M 委員

各行政区の子どもの人数の推移がほしい。通学区域割するとき、判断しやすいと思われる。

ただ、表ではなく図に示していただければわかりやすい。

○H 委員

色分けをして、事務局としてのたたき台を示してほしい。賛否両論出てくると思うが。

○田中館課長

何パターンかお示ししたい。

○C 委員

11 月からスクールバスを運行するという事なので、スクールバスに関する資料もお願いしたい。

○高橋課長補佐

移動手段といった補完的な部分、予算的な制限事項、施設の耐用年数等にかかる資料のほか、いつまでに何をしなければならぬかといった部分を次回、分かりやすい形でお示ししたいと考えている。

○P 委員

通学区域の検討ということで集まっているが、新しいマイホームを購入する際に何を基準にするかと言えば、N 委員がお話ししたとおり、子どもがどこの学校に行くかが重要視されると思う。学校ありきで考えて購入することを前提にして考えていかないと、20 年 30 年のスパンで考えていく際、或いはお金を投資しようとする際に、時代のスピードが速すぎてどうなるかわからない。街灯がないと思っていたところに新しい建物が建って急に明るくなったり、人口動態を考えていくにも、独身を貫くといった多様性のある価値観の違いがあることから、学校で勉強するというシステムも違って来るかもしれない。今子どもが関わっている生徒たちはオンラインで勉強したいという子たちが結構いる。そういったことも踏まえながら、ピーク時に教室は足りないが、人口が減って行って空き教室が出てくる、そういうことを想定しながらハード面の準備をするのであれば、臨機応変に対応できる学校づくりができていいのでは。ハード面だけにお金をかけてメンテナンスが大変だというよりは、今、子どもたちの将来のためにお金をかけていった方がよいと思った。

結論としては、学校ありきで購入を検討すると思うので、距離数で分けたほうがよいのではないかと考えた。

○田村会長

委員の皆さんの思うところというのは、子どもを考慮して、住みたいまちにしていくんだと、子どもたちの教育環境をまず第一に考えていくんだというところ。P 委員がお話ししたように、学校教育もスピードが速くなっていて、これからの教育のあり方というのは、国の方でも令和の日本型教育というものを打ち出している。その中で、個別最適な学びというものが国の考え方であり、オンラインだとか、一人ひとりがどのような学び方をしていくのかが問われている。個別最適な学びをしていくためには、どのようにしていくかが一つ、もう一つは、協働的な学びということも必要になってくる。コロナが蔓延して、オ

ンラインとなって苦しんでいる子どもが全国に、岩手県にもたくさんいる状態である。やはり、対面、友だちと勉強することの良さというものがあるので、その両面を、ハード整備はもちろんのこと、子どもたちの環境を作っていくというのが私たちの使命なんだろうと考えたときに、もちろん目の前に学校があればよいのでしょうけれど、優先的に短期間で行うことと、将来的にまちづくりと一緒にやっていくことと両面見ていく必要があると、皆さんのお話を聞いて改めて感じたところである。

次回は、開発予定地区の学区、子どもたちのことを考えながら、どのような学校選択の幅を持たせたらいいのかというあたりのたたき台をベースにしながら議論ができればと考えている。

以上を持って協議を閉じさせていただく。

4 その他

なし

5 閉会（19時50分）（田中館学校教育課長）